

医学系研究に関する情報の公開について

研究機関名*	独立行政法人労働者健康安全機構 大阪労災病院
研究課題名*	Impact of Lymph Node Metastasis on Pulmonary metastasis as the First Recurrence Site Following Colorectal Cancer Surgery
所属科*	外科
研究責任者*	末田聖倫
研究実施期間	開始 西暦 2010 年 1 月 1 日 ~ 終了 西暦 2021 年 12 月 31 日 (予定)
対象疾患 (予定症例数)	根治切除を施行した Stage I-III 大腸癌 (1181 症例)
研究対象となる治療・手術・検査の時期	自 西暦 2010 年 1 月 1 日 ~ 至 西暦 2018 年 12 月 31 日
研究概要*	<p>大腸癌は、世界的に罹患率の高い癌腫の1つである。大腸癌の根治的切除後、遠隔転移として肺と肝臓への転移が最も一般的であり、各々の発生率は7.0%から11.0%と3.5%から7.2%と報告されている。</p> <p>大腸癌の転移と再発形式は、リンパ系、血行性、および播種性の転移に分類されます。結腸癌では、肝臓への転移が最も多いのに対し、異時性肺転移の発生率は、直腸癌患者の方が多いと知られている。この遠隔転移の分布における違いは、ドレナージ経路の違いによって説明される。結腸および近位直腸からの血液は門脈系を通り、その後肝臓に到達しますが、下部直腸からの血液は中部および下部直腸静脈を通過して下大静脈および心臓を介して肺へと通じる。したがって、原発腫瘍部位は、根治的切除後の再発部位を予測するために重要と考えます。しかしながら、いまだリンパ節転移の経路についてはあまり知られていません。</p> <p>一方、リンパ系は大腸癌の転移の主要な経路としても知られており、リンパ節転移の関与の程度は患者の転帰を決定するための重要な予後因子です。過去の研究では、リンパ節転移が、全生存期間と無病生存期間の両方の独立した予後因子として報告されている。</p> <p>リンパ節転移と大腸癌の初回再発部位との関係に焦点を当てた研究はごくわずかであり、本研究では、R0切除後の大</p>

別紙第2号様式

	腸癌において、リンパ節転移の個数が初回再発部位に影響を与えると仮定し、リンパ節転移の個数と大腸癌の初回再発部位との関係を明らかにすることを目的とした。
倫理的配慮・個人情報の保護の方法について*	連結可能匿名化を行う。対応表はそれぞれの部署（施設・研究室）で厳重に保管する。本研究で得られたデータを当院外へ提供する際には対応表は提供せず、連結可能匿名化されたデータのみを提供する。学会や論文等で研究成果を発表する場合も、個人を特定できる情報を明らかにすることは決して行わない。
研究の問い合わせ先*	大阪労災病院 外科 末田 聖倫 Email: suedas11@yahoo.co.jp

*記入必須項目